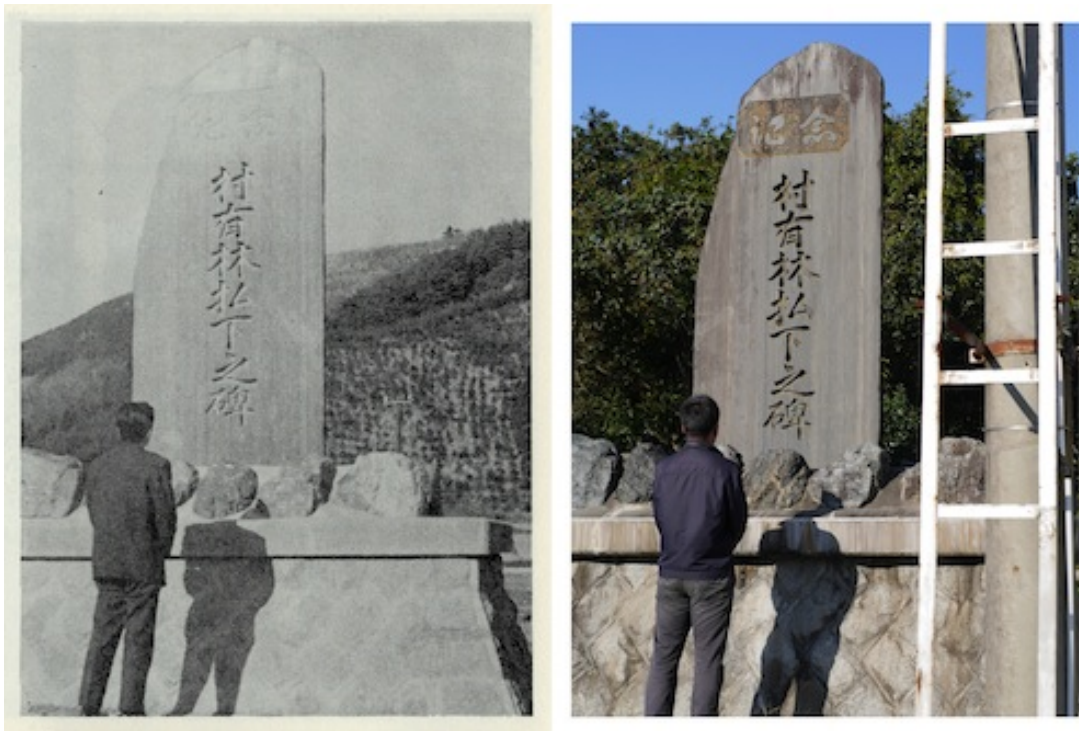


2017/01/22

竹内公太 「写真は石碑を石にする、それでも人は」



"石碑を二度撮る"より「村有林松下之碑」
左：斎藤伊知郎『近代いわき経済史考』（1976）p203 より 右：竹内公太撮影

会期：2017年2月3日(金) - 3月4日(土) 11:00 - 19:00 *日・月・祝日は休廊

オープニングレセプション：2月3日(金) 18:00 - 20:00

会場：SNOW Contemporary / 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

■竹内公太 展覧会のご案内

SNOW Contemporary では2017年2月3日(金)から3月4日(土)まで、竹内公太の個展「写真は石碑を石にする、それでも人は」を開催いたします。

これまでに竹内は、ふくいちライブカメラのモニターに突如現れた指差し作業員の代理人として災害を見る側の意識と匿名表現者の自意識を浮き彫りにした「公然の秘密」(2012 / SNOW Contemporary、東京) や、遺物を中心に刻まれた記憶を辿った「影を食う光」(2013 / 森美術館、福島)、手 (=携帯機器) で情報を取得する我々の風景をとらえた「手の目」(2014 / SNOW Contemporary、東京)などの個展を通じ、記憶を記録に転換する際のメディアのあり方や情報をとらえる我々の様をテーマに作品を発表してきました。



左:「影を食う光」(2013/森美術館、福島)、右:「手の目」(2014/SNOW Contemporary、東京) 撮影:木奥恵三

そして竹内は、2013年より福島県いわき市の図書館で見つけた斎藤伊知郎 著『近代いわき経済史考』(1976)に掲載された石碑の写真をもとに、現存する約170カ所の石碑を訪問して写真を撮影してきました。SNOW Contemporaryにて3回目となる本個展では、スキャンされた本の写真と竹内が撮影した写真とをインスタレーションとして再構成する予定です。

竹内は本作品を通じて、技術の進化によって膨大な記録があふれる現代社会においてメディアの寿命、異なるメディア間の変換を暗示し、世代を越えた記録の継承の困難さ、忘却と対峙する人間のありようを描きます。

本展を通じて、様々なメディアの形を中心に成立する社会や人のあり方の過去・現在、そして未来に思いをよせるきっかけとなれば幸いです。

■お問い合わせ 本展の広報にご協力賜りたくお願い申し上げます。

SNOW Contemporary

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-13-12 早野ビル 404

tel & fax : 03 6427 2511

mail : snow@officekubota.com, HP : <http://snowcontemporary.com>

担当 : 石水美冬 (いしみず みふゆ)

■竹内公太 略歴

2008 東京芸術大学美術学部先端芸術表現科 卒業

【個展】

2016 「メモリー・バグ」 The Arts Catalyst (ロンドン / イギリス)

2015 「Re:手の目」 SNOW Contemporary (東京)

2013 「影を食う光」 森美術館 (福島)

2012 「公然の秘密」 SNOW Contemporary (東京)

【主なグループ展】 (代理人を務める指差し作業員による出品を含む)

2016 「PERPETUAL UNCERTAINTY」 Bildmuseet (ウメオ / スウェーデン)

2015 「Don't Follow The Wind」 東京電力福島第一原子発電所事故に伴う帰還困難区域内某所 (福島)

「Don't Follow The Wind non-Visitor-Center」 ワタリウム美術館 (東京)

2014 「The Fifth Season」 James Cohan Gallery (ニューヨーク / アメリカ)

「Good Morning Mr Orwell 2014」 Nam June Paik Art Center (ソウル / 韓国)

「Censorship: The 7th Move on Asia」 Altanative Space Loop (ソウル / 韓国)

「Three Years After」 Wilfrid Israel Museum (ハゾレア / イスラエル)

2013 「Media / Art Kitchen", Bangkok Art & Culture Centre (バンコク / タイ)

「Art/Domestic:未来の体温after Takashi Azumaya」 ARATANIURANO|山本現代(東京)

「MOT コレクション After images of tomorrow", 東京都現代美術館 (東京)

「サイドコア—Body / Media / Graffiti」 Terratoria (東京)

「第42回いわき市民美術展」 いわき市立美術館 (福島)

2012 「Kashiwa City Jack(アートラインかしわ2012)), カラdeガナール(千葉)

「明日は、はじめてみる今日」, Snow Contemporary(東京)

「Daegue Photo Biennale 2012」, Center for Developing Culture (大邱/韓国)

「ひっくり返る」 ワタリウム美術館 (東京)

2011 「ソーシャルダイブ—探検する想像」 3331 Arts Chiyoda (東京)

2010 「Eun Hyung Kim, Emilija Skarnulyte, Kota Takeuchi」 RM Gallery(オークランド/ニュージーランド)

「群馬青年ビエンナーレ2010」 群馬県立近代美術館 (群馬)

「京都オープンスタジオ2010」 兼文堂スタジオ (京都)

2009 「101TOKYO Contemporary Art Fair 2009

「101 DISCOVERIES」 アキバ・スクウェア (東京)

「FRESH SELECTION」 ARTZONE (京都)

2008 「FRESH」 URBAN BACK-SIDE LABORATORY R2 (千葉)

【レジデンス・プログラム】

2010 「Wongok-dong Recipe」 Litmus Community Space (安山市/韓国)

【受賞】

2013 「第42回いわき市美術展」 入賞

2010 「群馬青年ビエンナーレ2010」 奨励賞

【収蔵】

東京都現代美術館、Kadist芸術財団